

NETZ Racing

TOYAMA

GR 86/BRZ Race

Race Report 2019 / Vol.2

大会名称	TOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Race PROFESSIONAL Series Rd.2
開催日程	2019.4.21
場所	富士スピードウェイ
参加車両	#123 NETZ TOYAMA Racing 86
ドライバー	松井 孝允
参加台数	34台 (PROFESSIONAL)
予選順位	25位 (2' 05.440)
決勝順位	11位 (第1ヒート 15位、第2ヒート 11位)

前回の鈴鹿大会から1か月。今回の舞台は、ここ静岡県の富士スピードウェイだ。鈴鹿と並ぶ日本屈指の国際サーキット富士スピードウェイ。全長約4.8キロのこの高速サーキットで今シーズン初の試みとなる2ヒート制が導入される。通常は「予選→決勝」を1回ずつ行い勝敗を決めるが、2ヒート制では「予選→決勝①(1ヒート)→決勝②(2ヒート)」と行い勝敗を決める。決勝①と決勝②それぞれに1位～10位までポイントが付与されるが、決勝②でチェッカーを受けることが条件となる。

つまり決勝レースを2回する為、通常の倍の距離を走ることになりチャンスもリスクも2倍の勝負となる。我々 NETZ TOYAMA Racing がパートナーを組むタイヤメーカー GOODYEAR が、鈴鹿大会より投入した NEW タイヤ「EAGLE RS Sport V3」はロング性能が良いことが売りだ。

2ヒート制では倍の距離を走る為、その恩恵を受ける最大限に受ける絶好の好機と捉えチーム一丸となって挑んだ大勝負だった。金曜日の専有走行では、いきなり8位という衝撃的な順位でスタートした #123 86 松井孝允。土曜日に行われる予選に期待がかかる。しかし、翌日に行われた予選は驚愕の結果が待っていた。何と、予選順位は25位(2' 05.440)。専有走行では8位だっただけにチーム内に衝撃が走り、全員落胆した。この時点で、表彰台という目標は潰えた。その後タイムが出なかった原因を全員で話し合いをし、決勝に備えたメンテナンスや作戦鍵を実施して決勝に挑んだ。



NETZ Racing

TOYAMA

GR 86/BRZ Race

Race Report 2019 / Vol.2

大会名称 TOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Race
PROFESSIONAL Series Rd.2

開催日程 2019.4.21

場 所 富士スピードウェイ

参加車両 #123 NETZ TOYAMA Racing 86

ドライバー 松井 孝允

参加台数 34 台 (PROFESSIONAL)

予選順位 25 位 (2' 05.440)

決勝順位 11 位

(第1ヒート15位、第2ヒート11位)

決勝①

スタートと同時に一気に1コーナー目掛けてアクセル全開で走り出す #123__86。ここで驚異の走りを見せることとなる。何と毎周ごとに1台1台とパスし、最終順位15位だった。10番手もポジションアップする大健闘の走り。表彰台はさすがに無理でも10位以内に入ればポイントが獲得できる。目指すは10位以内の順位だ。チーム内にも期待が掛かり決勝①を15位で終えた。

決勝②

さすがに2回目の決勝レースとなるとタイヤのライフ性能が心配される。グリーンシグナル点灯しブラックアウトスタート。1コーナー→Aコーナー→100R→アドバンヘアピン→Bコーナー。各コーナーで小競り合いをしながら、何とBコーナーまでに5台のパスに成功し10位。その後も少しずつタイムを詰め、9位までポジションアップする。クルー全員がその圧巻の走りに息を止めて興奮した。しかし、さすが名立たるドライバーが犇めき合うプロクラス。後続車両も果敢に攻めて来る。9位→10位→9位と攻防戦を続けファイナルラップへ突入する。あと少し頑張り!と、全員が心の中で祈った。ところがファイナルラップの1コーナーで事件は起きた。#123__86はややオーバースピード気味でアウト側から進入、次の瞬間イン側から後続車両がなだれ込み、立ち上がりで2台に抜かされ11位へ転落する。その後、規定周回数10LAPを消化し、11位でチェッカーとなった。

結果的にはポイント獲得はならなかったが、スタートの25位というポジションからすれば大健闘の結果だ。こうして2019シーズン Rd.2 富士スピードウェイが幕を閉じた。

